

あなたの思いやりを献血に 「はたちの献血キャンペーン」



冬は特に献血者が減って血液が不足する季節です。また、日本ではいまだに血液製剤の一部を海外からの輸入に頼っている状態にあり、国内献血による自給が強く望まれています。厚生労働省と日本赤十字社、各都道府県では新たに成人式を迎える若い世代の方々を中心に、献血への協力を呼びかけています。

若い世代の協力が必要です

献血者の約半数が16歳から29歳の若者たち。それに対して輸血用血液の約6割が65歳以上の方の医療に使われています。少子高齢化によって献血を担う若い世代は減り、一方で輸血を必要とする高齢者が増えることで、救命医療に支障をきたす恐れもあります。

厚生労働省では若い世代に、より一層献血へ協力していただくために、新年に成人式を迎える20歳の若者を中心に献血への理解と協力を訴える『はたちの献血キャンペーン』を毎年1月1日から2月28日までの期間に実施しています。

冬は輸血用の血液が不足します

ゴールデンウィークやお盆と並んで、年末年始は献血者の数が一時的に減少する時期です。

また、風邪などで体調を崩す人が多いことや、学校や企業、団体などの協力が得られにくくなることなども、冬場から春先(1月から4月まで)にかけての献血者数減少の原因となっています。献血者の減少は、長期保存のできない輸血用血液の不足につながります。1年を通して安定的に患者さんのもとに供給するために1人でも多くの方々の協力が必要とされています。

400ml 献血と成分献血にご協力を

献血は400ml献血、200ml献血、成分献血(血しょうや血小板など特定の成分だけを献血する方法)の3つの方法がありますが、基本的には400ml献血が成分献血へのご協力をお願いしています。これらは血液製剤の国内自給にとって必要不可欠です。

また、血友病の治療に使われている血液製剤のうち、一部の輸入製剤について供給不足が生じております。血友病患者さんへの血液製剤の安定的な供給を図るためにも、より一層献血への協力が必要となっています。